

..... ウンカ類の発生状況について

県内では7月11～15日にかけてトビイロウンカを含むセジロウンカの大量飛来が確認され、これに由来するセジロウンカ幼虫密度が高まっています。防除が必要とされる成幼虫10頭/株を超える圃場も散見されます。現地では圃場での発生に注意し、基幹防除の徹底をお願いします。

また、トビイロウンカも同時期に飛来していますので今後の発生に注意してください。

1. 予察灯での捕獲状況

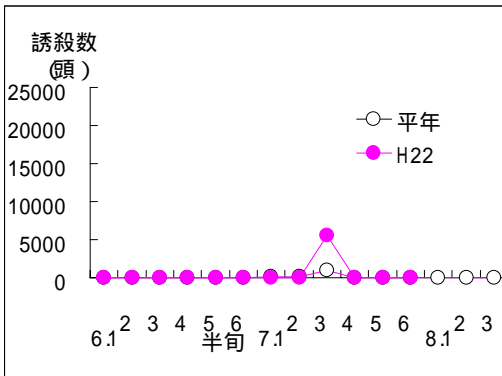


図1 . セジロウンカ (出雲市)

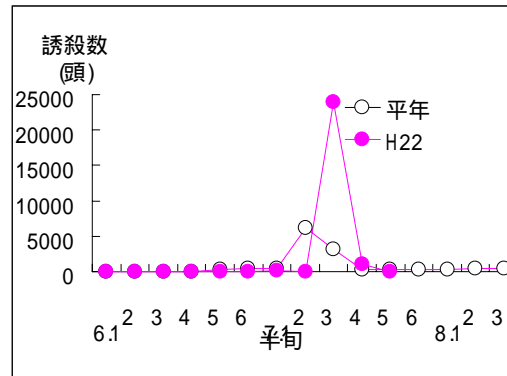


図2 . セジロウンカ(浜田市)

2. 圃場での発生状況

7月26～30日にコシヒカリ圃場を中心に25株払い落とし調査を行いました。

セジロウンカ	(全域)	(東部)	(西部)	平年値 (7月下旬)
25株当たり虫数	138.7頭	(126.3頭)	(159.4頭)	23.5頭
発生圃場率	100%	{ 100% }	{ 100% }	78.4%
成虫比	67.9%	{ 8.8% }	{ 15.5% }	41.3%
トビイロウンカ	(全域)	(東部)	(西部)	平年値 (7月下旬)
25株当たり虫数	0.03頭	(0.05頭)	{ 0頭 }	0.13頭
発生圃場率	3.1%	{ 5.0% }	{ 0% }	3.9%
成虫比	100%	{ 100% }	{ - }	25.0%

セジロウンカは県全域で幼虫密度の高い圃場が見られます。7月下旬の巡回調査では白い粟粒状の若齢幼虫から白地に灰色の縞模様が見られる中齢幼虫が出現しています。

また、出穂期を迎えたコシヒカリ圃場に比べて飼料イネやきむむすめなど葉色の濃い若いイネ株の圃場で密度が高い傾向があり、防除が必要とされる成幼虫10頭/株を超える圃場も益田、出雲、隠岐などで確認しています。圃場での発生を確認し、基幹防除を徹底してください。

トビイロウンカは、7月下旬現在、平年に比べて生息密度は低い状況ですが、今後初期密度が低くても急激に増加する可能性もあります。発生は圃場毎、圃場内でも大きく異なるので、圃場全体の状況を的確に把握し、若齢幼虫期の適期防除を徹底してください。

3. 巡回調査（地域別）

・セジロウンカ

	成虫	幼虫	計	圃場数	調査日
松江市	10.3	93.4	103.7	(8 圃場)	7月26日
出雲市	11.6	130.0	141.6	(12 圃場)	7月26～30日
大田市	17.3	101.5	118.8	(4 圃場)	7月26日
浜田市	35.5	96.7	132.2	(6 圃場)	"
益田市	10.5	198.8	209.3	(4 圃場)	"

頭数の最も多かった圃場は益田市喜阿弥町（成虫 16 頭、幼虫 324 頭、計 340 頭）以下、三隅町上古市（49、166、計 215 頭）、益田市遠田（8、204、計 212 頭）などで幼虫主体に密度の高い圃場が見受けられます。

また、農技センター（出雲市）の無防除圃場（コシヒカリ）（成虫 19.5 頭、幼虫 248 頭、計 267.5 頭）、隠岐の島町の圃場（普及部調査）でも高密度の圃場が見つかるなど県内全域でセジロウンカ密度が高まっています。

・トビロウンカ

トビロウンカは出雲市大島町の圃場で長翅 成虫 1 頭が捕獲されています。

広島地方气象台（7月30日）によると、「向こう1か月は気温は平年より高く、降水量は平年並み」の予報が発表されています。現時点では平年並みの飛来量、時期と考えますが、8月の気象条件はトビロウンカの増殖に助長的ですので、圃場での発生に十分注意してください。

4. トビロウンカの発生予測パターン

7月11日飛来群について実測・平年値を用いた有効積算温度計算から今後の発生予測パターンを作成したので調査・防除の参考にしてください。

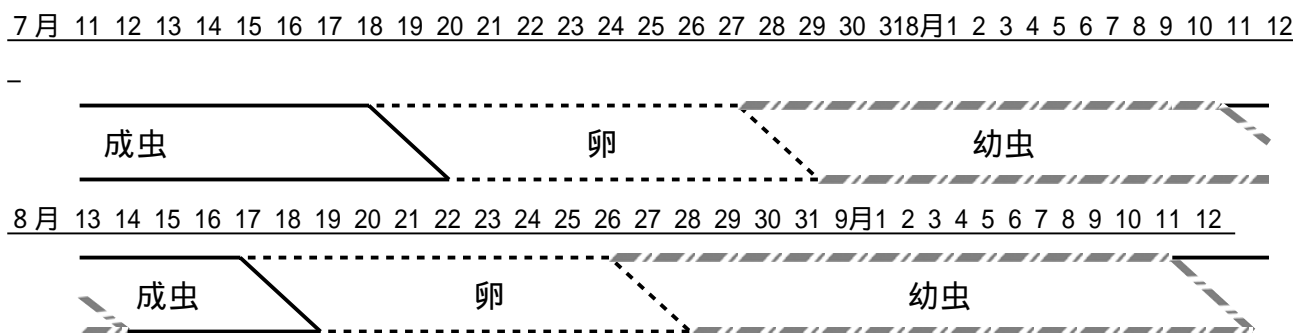


図3 . トビロウンカの発生予測（7月11日飛来群を由来として計算）

防除に当たっては、農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。